

令和3年駒ヶ根市教育委員会 第8回定例会 会議録

- 1 告示年月日 令和3年7月16日（金曜日）
- 2 開催年月日 令和3年7月27日（火曜日）
- 3 開催場所 駒ヶ根市役所 保健センター2階 大会議室
- 4 開会時刻 午後2時00分
- 5 閉会時刻 午後3時06分

6 議題

○審議案件

なし

○協議事項

（1）第1回総合教育会議について

○報告事項

（1）通学路における緊急合同点検の実施について

（2）行事共催等承認申請の専決処分について

○その他

7 出席者

教 育 長 本 多 俊 夫

教育長職務代理者 福 澤 惣 一

委 員 唐 澤 浩

委 員 氣賀澤 知 保

委 員 木 下 健 一

○委員以外で会議に出席した者

北澤教育次長、赤羽子ども課長、宮下社会教育課長、水野学校教育係長

吉澤教育総務係、馬場教育総務係

○傍聴：1人（うち報道機関 1人）

8 会議のてん末

1) 開会宣言

2) 教育長報告

○本多教育長 座ったまま失礼いたします。

先ほども言いましたが、お暑うございますということで、台風は近づいているものの、かする程度で本当に暑い日が続いておりますけれども、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

早速ですが、私のつづりのほうの1ページ目のところに「滝落ちて 群青世界 とどろけり」と水原秋桜子の俳句を載せておきましたけれども、私も初めて知りましたが「群青世界」というのは水原秋桜子のつくった言葉だそうであります。夏にはこういう言葉や情景がぴったりだなあと、少しでも涼しくなっていたいただければと思いましたので載せさせていただきました。

「教育ニュース」は、10年たって教員免許更新制がようやくなくなりそうな気配ということで、とんでもないことをよく10年もやってくれたもんだなあと思いますが、現場は先生方が本当に足りなくて困っています。現在、上伊那でも講師としてお願いしたい先生が足りない学校が幾つもあります。

ニュースが2つほどありましたので、またお読みいただければと思います。

1ページの最後のところに「病名で呼ばないで」というふうに書いてありますけれども、正式な本の名前は「僕のこころを病名で呼ばないで」、青木省三というドクターの書いた本であります。サブタイトルが「思春期外来から見えるもの」というものです。

特に次のページの2つ目の丸で「多くの子どもの問題が病気とみなされると、医師の診断や治療の対象として見られ、周囲の大人の目に、子どもそのものが入らなくなることが危惧される。」とあります。「あいつはなあ、こういう病気だぞ」とかという見方をしたら、もうそういう眼鏡で見てしまうということです。

その次の丸の2行目ですが、「この子どもたちの心の中に動いているものについてを考え、少しでも理解しようとすることなく注意欠陥多動性障害のJ君、広汎性発達障害のKさんと捉え、その症状の中で彼らの全てを理解しようとするのが、どれだけ子どもの心を傷つけてしまうか、大人は改めて考えなければならぬ。」とあります。

今更ではありますけれども、福祉支援の関係でアメリカのほうからいろんな病名なんかが入ってきたんですが、細分化され過ぎていて、細分化されればされるほど始末に困るというような現象があります。日本もアメリカに倣って整理はし始めましたけれども、何かそういう色眼鏡で見ると風潮がかなり多いのかなと思います。

これは、昔を考えてみれば、そういう仲間は幾らでもいたような気がします。包み込むという広さもあったかなあというふうに思いますが、果たしてこういうふうにして病名をつけることが本当にいいことかどうかということも問題提起として感じたいと思います。

では具体的表現としてどうすればいいんだといったら、終わりから2つ目の丸ですが、「「周りのことには十分に目が届かないところがあるが、自分の興味を持ったことにはコツコツと努力していく〇〇さん」「電車が大好きで、ほとんどの車両は見ただけでわかるし、将来、鉄道会社に勤めたらいいなと思っている〇〇さん」と、そういうのを特徴的に言ってやったほうがいいんじゃない

ないかということが書いてございました。

あとは参考として読んでいただければと思います。

今日は、ちょっと慌てて「子どもたちは未来の設計者」というプリントを後から配りました。そちらの話を今日はしたかったんです。今でもちょっと長くなってすみませんが、つい1週間ほど前に（現物掲示）こういう本が——3・11の大槌中学校の校長をやっていた鈴木利典さんが書かれたものが送られてきました。

その中から、まだ読みかけで、お尻のほうが大体おいしいところだったりするのでお尻のほうを見たときに、人づくりの基本は、豊かな体験が未来を変えるんだと、豊かな体験とは何だというと原風景、では原風景とは何だといったら、今、子どもたちが小中でやっている総合的な活動の時間やなんかだということで、この先生は、学校行事や体験活動が物すごく大事だと、そこでの人との触れ合いや何らかの体験というものは物すごく重要になってくるということを言っています。これは3・11の前も後も変わらないということを言っています。

それで、今、先生方が子どもにつける力の一番大事なことというのは何かといったら——3つ上がっておりますが——ティーチング、コーティングという、これはもう先生方はハウツーも含めてよく分かっていますが、スイッチングという言葉がもっと大事じゃないかということを言っています。心の問題です。

私は、それを言い換えれば内から育つスイッチを入れるってということじゃないかなというふうに思うんですが、これが学校行事や体験学習ととても深いかわりがあるって、学校行事や体験活動のスイッチさえ入っていれば、おのずと自分からやり出すんだぞという、そういうことであります。行事も体験活動も教師からあつらえられた問題だとやっぱり駄目だということです。

具体的な例は、何か大槌町が名古屋市と姉妹都市になっているようで、お互いに名古屋へ行ったり大槌町へ来てもらったりということで代表の子どもたちを訪問団で連れていくわけですが、名古屋城のそばのホテルに泊ったときに、夜、走りたいという子どもが出てきたそうであります。それはどういうことかという、新春大船渡の4大マラソンという東北のほうでもすごく力を入れているものがあるようで、その中に中学の駅伝があるのだそうですが、名古屋市を訪問しても、その子はもうスイッチが入っているから、「夜でも走れるところがあれば走りたい」と言ったそうです。だから、一緒についていった女の先生が私も走りますからということで、夜、危険を回避しながら一緒に走ってやって、城の周りを2周走ったそうであります。実際にその子のチームが優勝したそうではありますが、例えばそんなような例です。

そこにも「学力、学習意欲の重要な接点」と書いてありますけれども、スイッチが入れば勉強にも力を入れるので当然成績もよくなると、ハウツーではなくて、やっぱりスイッチングではないかという、そんなことを言っております。一言で変わるものは未来ではなくて今日の前にいる生徒のやる気や生き方だと、そっちが大事だぞということです。

駒ヶ根市が言っております「内から育つ」というのも、そういうスイッチを入れてやるということ、どうしたらスイッチがうまく入るかなと、そこを先生方はうんと苦労してもらえるように、明るい未来が待っているからと、そんな話をいたしました。

すみません。しっかりと終わりまで読んでないんですが、エクスだけちょっと抜き出したような紹介で申し訳ありませんが、ちょっと回しますので見てみてください。

以上であります。

3) 事業報告及び事業計画

○北澤教育次長から、事業報告及び事業計画資料について説明がされた。

〈質疑・意見等なし〉

4) 審議案件

なし

5) 協議事項

(1) 第1回総合教育会議について

○北澤教育次長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

資料の6ページですが、令和3年第1回駒ヶ根市総合教育会議は、7月29日の3時半からを予定しております。

内容については、協議事項は令和3年度事業の推進について、その後、意見交換として駒ヶ根市の小中学校ICT教育の推進についてということで、令和2年度に整備した状況と課題、学校の授業の様子等、そういったビデオを用意しますので、そういうのを見ていただいて意見交換をしたいということでもあります。

また、前回も話しましたが、通学路で子どもの事故がございまして安全点検の依頼が来ておりますので、通学路安全推進会議が行われましたので、その状況等をこの後の報告事項の中で確認いただいて、当日も説明しますけれども、御意見をいただければということで、よろしくお願いします。当日のことについては、また後でお打合せをお願いします。

○水野学校教育係長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

動画については、授業中の風景を撮って、それぞれどんな使い方をしているのかというのが分かるようになっていきますので、また見ていただきながら私のほうで解説をさせていただきたいと思います。

5クラス分くらいを撮ってきていますので、いろいろな授業を撮ってきておりますので、タブレットを使ったものとか、デジタル教科書を使っているものとか、いろんなパターンを撮ってきましたので、また見ていただければと思います。

本当は現場を見ていただいたほうがいいと思うんですけど、動画ではちょっと分かりづらいかもしれません。

〈質疑・意見等の概要〉

○福澤教育長職務代理者 ただ、うまくいっているところと、うまくいっていないところと、その差があるかと思う。

○水野学校教育係長 今回は東中を撮ってきましたので、一番うまくいっているパターンです。

○本多教育長 私も見ていないので何とも言えないですが、こういう使い方がいいぞとか、こんな使い方もある、あんな使い方もあるということで現状が分かればいいと思います。

時間が1時間ほどあるから、もしあれなら見てもらえればいいと思いますが、当日でよろしいですか。

○福澤教育長職務代理者 どのくらい撮ってあるのか。

○水野学校教育係長 全部で50分くらいですかね。各クラス10分くらいです。

○木下委員 見ることによって課題が浮き彫りになりますかね。

○水野学校教育係長 そこまではちょっと……。

○木下委員 見て安心して終わってしまうかもしれないですね。

○水野学校教育係長 ああ、こういう使い方をしているんだなあというぐらいのものです。

今回、幾つかの使い方のパターンがありますので、本当にタブレットを使った勉強方法とか、あとタブレットを使わないで先生がデジタル教科書を使ったやり方とか、あと逆に子どもが、何ていうんでしょうか、グーグルのアプリを使って調べる学習みたいなことをしているんですけど、子どもたちにアンケートを送って回収したデータを使って何か調べものをするとかというような使い方をしているとかという幾つかのパターンがあって、見ていただければと思うんですけど、その映像で良さが分かるかという、分かりづらいかもしれないんですけど。

○本多教育長 今から編集というのは大変かもしれないけれども、2本の意見交換で1時間しかないので、20分見ているとあっという間だから10分程度に……

○水野学校教育係長 幾つかに分かれているので、もし時間がないようでしたら何本かだけ見ていただくということもできます。

○本多教育長 今、木下委員さんが言われたけど、端からやって20分たったら切るのではなくて、特徴的なものはこれとこれというのをピックアップしていただければと思いますので、お願いします。

一番うまくいっているというふうに今言われたわけですが、ICTを使って授業が効果的に能率的にというようなことになっているかどうかということも大事なところだと思うんですが、無理して使っていやしないかでは、ちょっともったいないかなという感じがします。

○福澤教育長職務代理者 本質的なところを忘れないように見ていかないと、何でこれを入れているかということで、1年足らずの急加速で入ったものだから、こちら側も実際に完成したところをよく分かっていないということもあるから、県の会議に行ってもそうですけど、教員の実習の精度をもっと上げろとか、そういう要求はうんとあるわけですがけれども、それと同時並行で行っているわけで、なかなか難しいところがあると思います。

ただ、学校が休みになってリモートで学習できるという態勢が取れば、最初の目的は大体そこら辺から始まっておるので、その技術がうまく定着できる形ができれば、この次、そうしていくとスムーズに学習が回っていくということだと思うので、第一はそういうところだと思います。

あとは、深い学びを行って、そこからどう導き出すかということだと、先生の技術もあるんだという、そこは市としてやっていただきたいと思います。市長がどう考えているか聞きたい。

○水野学校教育係長 今回撮ってきたところは先生のスキルが高いクラスで、使い方が非常に上手な先生がやられていて、子どもたちは抵抗感が全くないと言ってもいいぐらい、ほぼ全員が抵

抗感はないんですけど、問題としては、やっぱり、より多くの先生がうまく使えるかどうかという、今、職務代理がおっしゃったようなことが課題かなあというのは、見に行ってもそういうところを感じるところです。

○唐澤委員 私の勉強不足というか、ＩＣＴとかＧＩＧＡスクール構想とか、あとプログラミングとか、そういう言葉ばかり出てくるので、その背景だって私はよく理解できていないんですよ。単にＩＣＴといっても、それは機械を使えばＩＣＴかもしれないですけど、その辺、そのときに整理して分かりますか。

○水野学校教育係長 教えていることは今までと全く一緒ですけども、やり方が違うというか、子どもが使うものが違うという感じです。やっていることはそんなに変わらないです。

○唐澤委員 一番大きいくくりがＩＣＴ教育ということですか。

○水野学校教育係長 道具としてそういうものを使いながら勉強を教えているというようなイメージです。

子どもたち側からはそこに対するハードルはそんなに高くないですけど、やっぱり先生、特に年齢が上がっていくほど使う割合が下がるというのが現状としてはあるようです。ＩＣＴ支援員との打合せをして聞いてみたりしたんですけども、やっぱりどうしても年齢が上に行くほどちょっと抵抗があって、使うまでのハードルが高くなってしまつてなかなか使いこなせていないというところが現実のところですけども、教えていることは全く今までと何も変わっていないです。

別紙でお配りした総合教育会議の資料ですけども、29日の会議の際に使う資料なんですけど、一番下のところに3番の課題ということで幾つか出ているんですけども、大きなところで行くと、一つは電化製品なのでもととの学校の電力が不足するところが出てきているというのが一つあります。

それから、急激にＩＣＴの機械を入れてきているので我々事務局のほうも余りにも専門的過ぎて何かあったときの不具合に対する対処ができるほどの知識を持っていないということで、やっぱりそういう専門的な知識を持った職員なり人材を事務局にも置かないと、なかなか最初のうちは厳しいかなというところがあります。

あと、先ほどから言っている教職員のＩＣＴの機器を使える能力というか、そういうものを高めていかなければならないという点があります。

あとは、端末の有効活用、道具としてうまく授業で使えるかどうかというところが先生によって個人差がすごくありますので、全体的にレベルを上げていかないといけないのかなあというところなんです。

あと、課題となっている「持ち帰り」です。本来、夏休みに持ち帰ろうという計画もあったんですけども、学校の先生側がまだうまく使えないということで、今回は夏休みの持ち帰りは見送りということにしました。本年度一年かけてどういう使い方ができるのかというのを再度検討していこうというようなことで、焦っているいろいろやらなくてもいいんじゃないか、ちょっといろいろの使い方を検討して、それから持ち帰りにしたらどうかという形にしてあります。

この辺が今の課題となっているところであります。

○北澤教育次長 令和2年の年度末から3年度にかけて環境を整えて、1人1台端末、小学校1・

2年生がiPadで、3年生から中学生はChromebookを全部そろえて使えるようにしてあるんですけれども、4月からやっと使えるようになってくるので、お子さんたちは慣れている部分が多少あるんですけれども、先生方、子どもも含めてまだまだということで、動画の中で御意見をいただければと、市長とも打合せをしたんですけれども、始まってこういった課題があるのでというようなところ、持ち帰りはなかなかできていないと、目標に現実が追いついていないような状況もあるので、それはほかの市町村もみんな実態としてあるので、早く始めたところもまだまだいろんな課題があり、駒ヶ根市はそんなに早く始まったというわけではないので、やっと追いついたところ——追いついたというか、これからです。

○福澤教育長職務代理者 設備は入ったわけですね。

○北澤教育次長 設備は入りました。

○福澤教育長職務代理者 一番やっぱり近づけなきゃならないのはリモート——我々もリモートで会議をやっているけれども、リモートで授業ができるかということになるべく近づけるということが第1番目じゃないかなという気がする。

○北澤教育次長 非常事態になればですね。

○福澤教育長職務代理者 そう。非常事態のときにどう使えるかということが。普通の授業の中で使うというのはできるけど、さあ、いざ使うといったときに、そこまで全然行っておらず、できなかったということがあるから……

○北澤教育次長 普通の授業でも使えるようにならないとうちに持ち帰っても使えないので、まずはその段階が大事ななところですよ。

○唐澤委員 私も思ったんですけど、持ち帰って何をするかということですよね。

○水野学校教育係長 そうですね。そういうことですね。

○唐澤委員 そうしたら、もう学校へ来なくてよくなるよね。

○北澤教育次長 子どもはできるけど、先生も的確にできないとうちにもならないので、お互いにうまく使えないと……

○水野学校教育係長 今回撮ってきたものの中では、よく授業が始まって最初に小テストみたいなもの、漢字か何かの小テストみたいなのをやったりするんですけれども、タブレットを使ってそれをやって、先生が答え合わせをせずに、もう入力したら合っているかどうかというのが出て、どの子が間違っていて、どれぐらいの正解率かというのも瞬時に分かる、3分ぐらい時間を取って小テストをやって、それを瞬時に判断して、この子は分かっているなというのが分かるようなことで授業に使っていたりというのもありますので、先生がそういう問題集みたいなやつを遠隔で出しておいて、どの子が分かっているのか、どの子が分かっているのかという判断は離れていてもできるかなあというのが一つあります。

○赤羽子ども課長 あとは、やっぱりよく言われるのは子どもたちがパソコンをどう捉えるか、アンケート調査によると、やっぱりまだゲームだとかユーチューブを見る道具としてパソコンを見ているのが多いので、やっぱりそれを学習教材として認識するようにならないと、なかなか本格的に導入したということにならないのかなというのは大いに感じます。

○本多教育長 パソコンを使ってゲームをやったりするというのは、もう世界でも物すごく上位らしいですが、学習に使うというのは最低だそうです。だから、パソコンというのはゲームをや

るものだと、意識がそうなっちゃっているということですね。そこから脱却してもらわないと困るんだけれども、遊びというか、欲求を満たすほうからスタートしちゃっているのではなかなか厳しいです。

けれども、ちょっと先生方のために言い訳をすると、3年前倒しでやっているわけだから、3年というと中学1年生からすると中学生生活全部ということで、そのくらいかかるものを一気にハードだけは整えたわけなので、これで先生方の資質が悪いとか先生たちは何もできないじゃないか覚えろと言われても、申し訳ないけど、現場はただでさえ忙しいところへ持ってきて、日本全国が無理を言われてやっているの、必死になっているということは事実なので、やっぱりそれには時間がかかるということは理解してもらわなきゃいけないなという、ただただかばうんじゃないくて、俺が教員だったら「ふざけるなよ」と言ってしまいたいようなところがあります。

それで、何かというと子どもは進んでいるじゃないかと、それはゲームで使ったりして使い慣れているというのがあると思うので実体的に違うんだけれど、そんなようなことがあるということです。

先ほど本質的なところを絶対に見失わないようにというようにことで代理さんのほうから御意見が出ました。

たまたま今ふと思い出したんだけど、例えば、今オリンピックの真っ最中だけれど、大野選手が柔道で金メダル取ったときに投げたところが瞬間にたたたたたと3Dで動いたんですね。そうすると、投げたときに向こう側がどうなっているのかというのが一瞬で分かって、ああ、ここでこうやってここを引きながらこうやったから、ああなるほどなという、昔であつたら想像したり、細かく説明を聞かないと分からないようなものが、つーと動いてくれたことでああなるほどと思ったから、あれも一つの使い方かなというふうに思いました。

けれど、あれは日本の最先端の人たちがやってもあの程度で終わるわけだから、現場でばんばか見えよというのはちょっと厳しいんじゃないかなと思いますけど、ああいう使い方こそかゆいところに手が届くすばらしいやり方だと思いました。要するに、この台をこっちからだけ見てるんじゃないくて、横から見たり向こう側から見たらどうなるのかというというやつを瞬間的に見せてくれるということで、あれがやっぱり今回のオリンピックでは一番かなという、例えばそんなようなことです。あれはハイレベルだと言われればそれまでかもしれないけれど。

もう一つは、先生方をフォローするんじゃないけど、持ち帰りは、現場が持ち帰れるようにするにはどうだいと言ったら、進んでいる東中も含めて全ての7校がちょっと待っていただかないとできないということでした。

文科省も言っていますが、一斉に学校を休みにするっていうことはまずあり得ないことで、部分的に学級やなんかでとか、小さい学校で一気にというのは別だけれども、学びを止めないということで、できるだけ学校全部が休校というようなことは極力避けるようにというような指示も出ていますし、それだけ、やっぱり十分警戒をしなきゃいけないというふうに思います。

冒頭で言いましたように、そんなことよりもスイッチングをいかにするかということを常に心がけておれば、持ち帰らなくなつてどうっていいことはないと思います。おまえら、こういうときに、いざとなったときにどうすればいいかということを常に言って念頭に置いておくことのほうが大事かなと思います。そうしたら課題を自分で見つけるとは思います。

時間ができてラッキーという子どももいれば、何をやったらいいか分からないというのは大体受け身でいるということですね。宿題を出さないと何もしないというのは、もう完全に受け身です。

夏休みは何も宿題が出されなくてうれしかったというくらいに、それが本当の夏休みじゃないかと思うんだけど、ただでさえゲームばかりやっているようなので、親が心配するから学校も応えるようになっていて、ちょっと世の中全体がうちに持ち帰っても先生方が何とかしてくれよという雰囲気がありますよね。

夏休みだったら何もする必要ないけど、ふだんするということになったときには、代理さんが言われたように何とか対応できるぞというようなことにして、極力急がなきゃいけないと思うんですけれど。

いつまでも、中学生にもなって先生ばかり頼っていてもいかがかなという、ちょっと高度な言い方ですけど、覚えたばかりの言葉だけど、スイッチングをしっかりする、先生方も意識を変えてもらわなければならないと思います。何か新しいことをするんじゃなくて、今ある行事、今あることで十分だそうであります。上伊那は昔からやっている総合的な活動に力を入れれば全然問題ないと思います。

○水野学校教育係長　ちなみに、今回入れたタブレット端末、グーグルの Chromebook というのを小学校3年生から中学3年生まで入れてあって、グーグルのアプリが使える端末ですけども、グーグルのアプリ自体がもともと教育をベースにつくられているので、すごく使いやすくなってしまっていて、グーグルのIDとパスワードをそれぞれ子どもたちに配ってあるので、端末を持ち帰らなくても家にパソコンがある子どもはグーグルのアプリから入ってIDとパスワードを入れれば学校でやっていたものを見たりいじったりすることができるようになっています。子どもによっては、夏休みに入って自分のうちのパソコンから学校で勉強したのを見たりということをしている可能性はあります。

○福澤教育長職務代理者　総合教育会議もこういう話になるのかなあ。ある程度話をまとめておいていかないと、そこへ行っているいろいろなことをやみくもに言ってもいけないからね。そうしないと、今までもそうだったけど固めていかないとまずいね。

○北澤教育次長　また打合せをさせていただきます。

○本多教育長　この後でもう少し詳しく話をさせていただきます。

6) 報告事項

(1) 通学路における緊急合同点検の実施について

○赤羽子ども課長から説明がされた。

〈説明の要旨〉

資料の6ページからになります。

今年6月28日に千葉県の八街市で発生しました下校中の児童の列にトラックが突っ込んで5名が死傷する大きい事故がありました。

それを受けまして、文部科学省、国土交通省等から通学路における更なる安全確認についてということで、県警も含めて指導がございました。

たまたま私どもの駒ヶ根市におきましてはいろいろな関係機関と年に1度通学路の安全点検を含めた対策会議をやっておりまして、先ほど次長から業務の報告があった中で、通学路安全推進会議が7月19日に開かれたところであります。

その中では、今回の事故を受けた話も含めて、現在の通学路で各学校から出されている問題点、あるいは危険箇所等を出していただきながら、その部分をどのようにしていくかというような話もさせていただきました。

あと、今回、別冊の資料がございます。

会議自体は資料1にあります駒ヶ根市通学路交通安全プログラムというものに基づいて実施しておるわけですが、これをさらに遡る平成24年の8月に非常に全国で登下校中の生徒が死傷する事故が相次いだことを受けて、平成27年、駒ヶ根市としましては2ページのところにございます2の通学路安全推進会議を設置したところでございます。

今回この会議を行ったところでございまして、先ほど申し上げましたように各学校からの危険箇所等を報告していただきながら、それについて協議したところでございます。

また、4ページからの資料になりますけれども、国土交通省の飯田国道事務所から「生活道路の交通安全の確保に向けた取組の推進について」ということで、生活道路などに時速30kmの範囲内で時速の制定をするというようなことをすると、国からの補助を受けながら、その範囲内のエリア内の危険箇所を整備できるという、こういうプログラムが国交省のほうにあるということで、長野県内でも幾つかそういったエリアを国へ申請して進めているというところがあることを紹介いただきました。

主に小学校の周りやなんか——一般の人たちの生活道路でもあるわけですが——小学校の周りの通学路に当たるところの範囲を「ゾーン30」というふうに指定をします。

ざっと言えばですが、9ページの右側のピンクのところにありますけれども、学校の周りのゾーン30に指定したエリアの中のいろんなデータを活用して、ETCを搭載した車が通ったところ、その車が今までに通ったデータを吸い取れる、そういう装置があるんですが、そういうものでエリアの中の危険箇所等が実際にどうなのかというものをデータの的に分析したりする。

あるいは、写真のほうにあります可搬型ハンブの貸出しということで、横断歩道の前あたりに、道路に標示をただけではなかなかドライバーには分からないということで、ちょっと見づらいですが、この赤い部分は少し盛り上がりまして、この先に横断歩道がありますということをお知らせするような、そういうものを貸し出して実証実験をやるというようなこともできるそうです。

そういったことも私どものやっておるような安全対策会議などで議論しながら、9ページのところにPDCAサイクルと載っておりますけれども、こういったことを回しながら進めていくというような案内もあったところであります。

また、その中で、実際には22ページからになりますけれども、これが昨年度の各学校のPTA等と共同でやりました通学路の危険箇所の見回りの結果からということで、各学校からの資料がつけてございます。

交通事故の危険ばかりではなくて、不審者が出そうなどころだとか、そういう危険箇所の報告もこの中には挙がっておりまして、このものを広く公表していくということも駒ヶ根市の通学路

交通安全プログラムのほうには課せられております。それが 35 ページからの各学校の一覧表になっており、それを市のホームページのほうに移したものが 37 ページからのものになっているところがございます。

37 ページが赤穂小学校の区域でありますけれども、よく我々も通勤で使ったり、あるいは車で通ったときに危ないなと思っておる「中経線」、今度新しくできましたバイパスから農道までを使うことができるようになった道路であります。そこの一部にまだ歩道が設置されていないというところもあります。そういったところもこの中には載っています。左の青い四角の⑦番は「危険箇所東側に令和元年 12 月、都市計画道路が新設され交通量が激増し危険」ということです。青い四角からの矢印を追っていきますと赤い楕円がありますが、これが新しくできた中経線になります。非常に交通量も多くなってきているし、歩道がまだ一部未設置のところがあるということで、学校としては一部通学路に指定をしておりますけれども、そういう要望があるというようなことを図示して公表してあるというところがございます。

38 ページ以降は各学校のこのようなことが公表されておるところであります。

今回の安全推進会議の中では、特に 2 か所について皆さんに御検討をいただいたところがあります。

1 か所目が赤穂高校の東のところになります。

45 ページを御覧ください。

赤穂高校の周りの道路ですけれども、上のほうに緑色の点線でとんとんとんと示してあるんですが、これが現在も通学路として使っておるところですけれども、非常に細い道で、車の通っても少ないので子どもたちもそこは安心して歩ける道です。

この左のほうへ行くと青色の線のところに黄色いイガグリマークみたいなものがあります。これはちょうど赤穂高校のところから出てきた三差路より少し東へ行った場所ですが、昔ここに横断歩道がありました。子どもたちはこの横断歩道を渡って青い線の通学路を通って南小学校へ通っていましたが、このイガグリマークのすぐ東のところの住宅が 1 軒増えたということで、非常に見通しが悪くなりました。青い線ではない無色の線の道路がありますが、③と書いてある矢印、こういった方向からくる車からだと横断歩道を渡る子どもたちの発見が遅れて非常に危険だということで、何年か前に横断歩道を消されてしまったということがあります。

そこで、地元からの要望で、この緑の点線を通学路とせずに、今度は右のほうの赤い点線が下のほうに伸びておるわけですが、この赤い点線、「ヨウホク」さんの前、赤穂高校のグラウンドの東を通って、その先の交差点で横断歩道を渡って赤穂高校南の南小学校を開設したときに設置した「わらべうたの小径」といった通学路を通って学校へ行くような通学路に変更してもらいたいという要望があったということで、この部分を視察し、検討をしてみました。

結果は、また別のところで報告をさせていただきますが、それが一つです。

もう一つ、今の資料を少し前に戻っていただいて 42、43 ページになります。

これは県道駒ヶ根長谷線、通称「田沢の坂」と言われておるところでございます。田沢の坂をお通りになったことのある方は御存じかと思いますが、道路の南側に歩道があります。

43 ページに 3 つの写真がある中の左下の写真、職員が道路の幅を測ったりしていますが、幅が狭いということと歩道の高さが非常に低いということ、ちょうどカーブのところもあるというこ

とで、そのほかの写真を見ますと、子どもたちが歩いて通るにも非常に危険で、狭いがために1列で子どもは歩くようにしておるんですけれども、どうしてもやっぱり子どもですので隣に並んで歩きたいと、そういうことで自動車等から見ても危険だということで、こちらのほうも地元のほうからの要望がございまして、今回視察をしたところであります。

地元の下平幼稚園の子どもたちは後々東小学校へ通うということで、通学の練習ではないんですけれども、結構年長さんになると保育園のほうで先生が引率をしてここを西のほうへ向かって歩いて園外保育もやっておる中——これはそのときの写真になっているんですが——やはりこれを見ても、1列に並んでおるときはいいんですけど、2列に並ぶと非常に狭くて危ないと、そういうところでございます。

また、ガードレールもございませんので、今回の千葉県での事故とも非常に似ておるといえるか、そういうようなところかと思っておりますので、この部分は早期に検討を進めていきたいということで検討を進めました。

以上が19日に行われました通学路の安全点検の御報告でございます。

また、結果はホームページを更新して、県にも国へも要望をしていくということでございます。以上です。

〈質疑・意見等の概要〉

○福澤教育長職務代理者 駒ヶ根長谷線の田沢の坂のところだけど、上り切ったところの「パチンコパラダイス」の横に緑色の鉄板で川の上に張り出している鉄板の歩道がありますが、そこは先ほどの枠に入っていないんですか。

○赤羽子ども課長 今回のところは、坂の途中のカーブのところまでです。地元の要望で出てきたところはカーブの歩道のところしかなかったです。その鉄板のところは……

○福澤教育長職務代理者 あの鉄板も補強したような形になっているけど、川の上を歩くような形ですね。

子どもたちはあそこを歩いているけれど、結構あそこは歩いていても怖いですね。あそこの歩道は南のほうから来た子どもたちもみんなあそこを歩くでしょう？

○赤羽子ども課長 エコーシティーのほうから来た子たちですね。

○福澤教育長職務代理者 そうそう。あそこの歩道橋を渡っちゃうの。

○赤羽子ども課長 一応、通学するとき、登下校のときには歩道橋を渡るようにはしてあります。

○福澤教育長職務代理者 ああ、それじゃあそこは通らないのか。

確かに駒ヶ根長谷線は、普通るときはいいけど、雪が降ったりすると——雪が降れば大体送り迎えするんだろうけど、雪が降ると雪をかかないで送り迎えをするのか。

○本多教育長 倒木もあったよね。

○赤羽子ども課長 この間も大雨で倒木して……

○福澤教育長職務代理者 通行止めになったよね。

○赤羽子ども課長 はい。

○福澤教育長職務代理者 危ないところは危ないところだね。

○赤羽子ども課長 何年か前に田沢の川の南側に道を造りましたが橋が流れてしまって、それ以

降、一応草刈りはしているようなんですが、子どもたちが登下校に使うことはできない状態です。

○宮下社会教育課長 漆山の上のところには橋があるんですけど、上のほうの橋がないのでね。

○唐澤委員 落ちてしまったらまた架けるっていう考えはないんですか。本当はそのほうが良いと思うんですけど。

○宮下社会教育課長 ただ、やっぱり昔は車から離れているというのが安全だったと思うんですけども、なかなか目が行き届かないとか怖いということの中で、なかなか向こう側を通る子どもたちも少なかったんじゃないかと思います。

○福澤教育長職務代理者 交通安全じゃなくてね。

○赤羽子ども課長 防犯上の理由でね。

○北澤教育次長 ああそうだね。怖いかもしれないね。

○福澤教育長職務代理者 私、まっすぐ行って斜め下に下りたときに滑っちゃった。

古田切のほうは狭い道で街灯のついた道があるけどね。

○北澤教育次長 東小学校の横の帝通のある工業団地の北側の整備は6月補正で決まっております、所有者の方も承諾して、防犯灯が見えにくかったので除伐をしていただきました。

また、各学校での調査をお願いして、10月までにもう一回現地を見て、必要ならプログラムの会議を経て報告をなささいということになっていますが、その期限が令和3年10月となっているので、そういったことも通常にやっている以外に点検をしていくように、何かあると、ブロック塀じゃないですけど、やるんですけど、こういういい機会に点検をもう一回していこうということで、今出てきたり要望があったり、出てきたのは、駒ヶ根長谷線のこととか、赤穂高校東側の通学路の希望はないので、こうやっていただくのも一つの案だというようなことも図面に示されております。

総合教育会議の中でも説明をしていただいて、市長も含めて意見交換、感想等も含めてやらどうかという提案です。

○唐澤委員 通学路交通安全プログラムで検証されて、それはそれですごくいいと思うんですけども、やっぱり市民の人にここは危ないということを周知するのがすごく大事だと思うんですね。

ホームページに載せたりしても、なかなかみんなそれは見ないと思うし、やっぱり機会を捉えて何か、運転者もそうだし、子どもも含めて歩行者もそうだと思うんですけども、そういうところに啓蒙していくのが――教育委員会ばかりじゃないとは思いますが、警察とか、いろんなところと一緒にやっていくのが大事だと思います。

○北澤教育次長 区やPTAから要望はいただいて、開始はしているんですけど、こういうところは危ないということをはっきりさせていく必要はあると思います。何らかの形で公表はしていますが、身近にPRしていきます。

○木下委員 いいですか。

田沢の坂については、もう私どもは東中学校の関係で散々今まで見てきました。ずっと懸案事項になっていましたので、これからももちろん検討していただきたいところはあるんです。

お聞きしたいのは、市場割の関係のほうは、これは地元の自治会からはもう要望がやっぱり上がってきたんですか。

○赤羽子ども課長 赤穂高校のところですか。

○木下委員 はい。

○赤羽子ども課長 横断歩道がなくなってしまったということで、非常に危ないので、こちらの、ヨウホクさんのところにも歩道がないので、歩道の設置も含めて検討をということです。

○木下委員 あったはずの横断歩道が撤去されてしまったなんていう話は私も初めてお伺いしたので、ちょっと驚きです。

高校の北側ばかりではなくて、南側のほうも今はツルヤのほうを通してバイパスへ結構抜けて行くようになって、私のイメージだと朝はあそこをよく通るんですよね。こちらも本当はちょっと早急に対策を練っていったほうがいいかなと思います。

○本多教育長 45 ページの下の黄色いところですね。

○木下委員 はい。そうです。

○本多教育長 通勤時、この道は物すごく混んでいますよね。

○木下委員 すごいですよ。

○本多教育長 この道は通らないんだね。

○福澤教育長職務代理者 通らないね。

○本多教育長 痴漢が出たという道を通るので、さっきの話じゃないけど、嫌だと言われたら、さあどうすればいいかということですね。

○唐澤委員 わらべうたの小径という道というか、そこまで行く道がありますよね。

○福澤教育長職務代理者 それは普通の道路とは別ですよ。

○唐澤委員 そうです。新しい道です。

○北澤教育次長 歩行者専用道路です。

ただ、やっぱりそこは陰になってしまうところもあるから……

南小のほうに行くには、バイパスの橋の下を通して潜っていくので、逆に不審者が出るんじゃないかとかいうことで、そこには防犯カメラをつけてあるということです。だから、わらべうたの小径につなげるより赤穂高校のところに歩道をつけて小径を行っていただくという、ある意味、そのラインをつくったほうがいいかなと思います。今、防犯カメラもつけたりしてあります。

○木下委員 ヨウホクさんの目の前の道もよく通るイメージがありますが……

○北澤教育次長 あの前に歩道をつけたいということです。あそこに薬局がぽつんとあって、そのカーブの手前です。

○木下委員 際まで行かないと確かに見えないところです。

○赤羽子ども課長 視察のときもヨウホクさんの前のところの上赤須のほうから上ってくるところは、結構坂で際が見えないんですよね。

○木下委員 ここは急務ですね。

○北澤教育次長 安全プログラムに沿ってホームページに公開して、国の補助を優先的につけていただけるということなので、そういった部分を含めて整備をしていくことについて調整してありますので、承知していただければと思います。

○本多教育長 歩道はヨウホクさんの反対側につけるんだよね。ヨウホクさん側につけるんですか。

○赤羽子ども課長 西側だと思います。

○本多教育長 反対側ですか。

○赤羽子ども課長 そうしないと、ツルヤでまたあそこを渡らなきゃならないですからね。

○本多教育長 そうそう。それを心配したんです。

○唐澤委員 37 ページの赤穂小学校区のところに載っていないんですけど、上穂線を行って、ずっと南田から上穂まで行く国道の1本西側の南北の道も、あそこも通勤時は車すごい多いし、子どもも歩いているし、そういう道ばかりなんですよ。

○赤羽子ども課長 だから、バイパスとか、ああいう太い道ができると、その抜け道に細い道を使うんで、ちょっと嫌ですよ。

○唐澤委員 ほとんどの道には歩道がないと思ったほうがいい。

○赤羽子ども課長 一つの工夫としては緑のグリーンラインを引くみたいですがけれども、やっぱりそんなあれはすぐに消えてしまうというふうに国交省でも言っていました。

○本多教育長 変な話だけど、伊那市の場合、弥生ヶ丘の生徒は昔の上伊那図書館の隣に「大根坂」っていう所だったけど、痴漢が出たら嫌だからといって伊那文化会館よりもうちょっと南の駅前のところから来て、それで信号を回って上っていく、あっち側を皆が通るようになってしまったんだよね。あっちは薄暗いから嫌だと。そうすると、弥生の生徒も伊那中の生徒も伊那小の生徒も、冬場ももう両方をがんがん通るんで、よく事故が起こらんねという状態で、高校にちょっと何とかしてくれよと言ったら、分かりました、生徒たちにはしっかり言いますって、小さい子が優先だぞと校長さんは言ってくれたようだけど、それは1回こっきりで、やっぱり今もすごい銀座くらいにぎやかなんです。

結局、痴漢が怖い、嫌だといっていくと、結局狭い道は何かしろよというふうになっていきます。さっきの田沢の坂だってそうです。結局そうやっていくんだけどね。どこまでそれにちゃんと対応できるかどうか、命と引き換えで。

いずれにしてもヨウホクさんのほうの場所を借りたら事故が起きたんじゃ笑い話にもならなくて、慎重にね。

よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

（２）行事共催等承認申請の専決処分について

○馬場教育総務係から説明がされた。

〈説明の要旨〉

12 ページをお願いします。

受付番号3-033 ですが、これは写真の同好会による入場無料の写真展で、一昨年度も後援実績があるものです。

3-034 は長野県スポーツチャンバラ協会主催のチャンバラの県大会で、一昨年度も後援実績があります。

3-035 はNPO法人「天竜川ゆめ会議」が主催の入場無料の写真コンテストです。この法人は複数の行事で後援実績があります。

3-036 も同法人主催の天竜川河口のウミガメの産卵場所の自然環境の視察旅行で、一昨年度も後援実績があります。

3-037 は伊南子ども劇場が5月に予定していたライブ鑑賞会がコロナの影響で中止となり、代わりに演奏者たちとの交流会を行うというものです。

3-038 はピアノスクールによる発表会で、毎年後援しております。

3-039 もピアノ演奏の発表会で、これも毎年後援しております。

3-040 は新規の案件ですが、天竜かっぱ広場で行われる誰でも無料で参加できる演奏発表会です。

3-041 は劇団による音楽朗読劇で、一昨年度も後援実績があります。

3-042 は入場無料の母親コーラスまつりで、一昨年度も後援実績があります。

3-043 はアド・コマーシャル株式会社が社会科資料集を作成し小学4・5年生に配布してくださるもので、毎年後援しています。

3-044 は長野県 60 才野球連盟主催の野球の県大会が今年は駒ヶ根市と飯島町で開催されるというもので、平成 30 年度にも後援実績があります。

説明は以上です。

〈質疑・意見等なし〉

7) その他

なし

8) 閉会宣言 本多教育長（午後 3 時 0 6 分）

駒ヶ根市教育委員会会議規則第25条の規定によりここに署名する。

令和 年 月 日

駒ヶ根市教育委員会

教 育 長

教育長職務代理者

委 員

委 員

委 員
